

山口ふるさと伝承総合センター 伝承センター通信

平成29年
11月



山口天神祭・備立行列



大殿ふるさとまつり



リコーダーカルテット

11月12日は大殿ふるさとまつりの会場の一つとして様々な展示・イベントが催され、世代を越えたいふれあいの場に。23日は山口天神祭。八坂神社から出発した備立行列が、江戸時代の参勤交代を彷彿させます。



焼そばバザー



尺八演奏

まなび館秋の鷺流狂言公演開催

9月30日山口鷺流狂言保存会の皆さんにより、鷺流狂言の公演をまなび館で開催しました。日頃いこ場として活動され、隔年で教室も開講しているまなび館での公演は9回目を迎えます。樹下明紀会長より「地方のマイナーな狂言ですが、日本ユネスコ協会連盟のプロジェクト未来遺産に登録され、100年先までも残していかなければいけない、と温かい励ましの言葉をいただきました。これからも頑張っていきたい」と挨拶いただきました。

落ちてきた神鳴から腰の治療をたのまれた医者が、望みを叶えてやろうといわれる「神鳴り」、即興の和歌を詠むことになった大名に、太郎冠者が打ち合わせ通りに歌を思い出させようとする「宮城野」、留守番を言いつけられた太郎冠者と次郎冠者が、主人から毒だといわれた桶の中身を食べてしまう「不毒」が上演され、受け継がれてきた伝統芸能に親しむひとときとなりました。

11月4日(土) 県教育会館で定期公演が催されますので、ぜひお運びください。(料金無料)



まちづくりNEWS ◆ミニ暮音小路◆

大内文化街道まちなみ協議会の街歩き

今回のテーマは、今後の整備事業に資する提案内容の再確認と既存の整備状況の検証、景観上のルールづくりを考える際のベースとなる現状把握の2点です。9月23日お彼岸の昼下がり、下を向いて舗装の材料、側溝の形状やグレーチングの土詰まりの状況、マンホールのデザインなどをチェックし、上を向いて外灯の形状や間隔、電線や看板などをみながら、途中商店街のイベントにも巻き込まれ、2時間かけて一の坂川周辺や豎小路などをぐる～と見て回りました。

歩車共存の道路における色調の区別による視認効果など出された意見をまとめて提言していきます。



指定管理者 ～NPO 法人山口まちづくりセンター～

大日本職業別明細図

昭和8年(1933)(雨村明倫所蔵)

⑦万代醤油店

江戸時代から醤油業を営む旧家で、幕末は志士達を支援しました。錦小路を入った裏手の山口醤油会社にはランドマークの煙突がありました。

⑧図書館

大正15年の摂政宮(昭和天皇)行啓を記念して、春日山東麓に近世ドイツ式三階建の図書館が新築され昭和4年開館、郷土志料室が設置されました。今の県春日山庁舎。

⑨亀山公園

維新の大業を記念するため、亀山頂上を山口県の形に模して公園化し、毛利敬親ほか支藩藩主らの銅像6基が明治33年建てられました。「銅像公園」とも呼ばれ観光名所に。第二次大戦中、金属回収のため供出。現在の毛利敬親像は昭和55年再建されたもの。

⑩水道町

大正14年度から昭和4年1月にかけて下水道工事が行われ、石観音付近から久保ノ町を経て山口駅前を通過する東幹線での布設に伴う新設道路と思われます。その後「東山通」と改称されました。

⑪市立診療所

昭和5年に市救護所とともに開設。区長等の認定により無料診療が行われました。医療施設費は市医師会・赤十字社山口支部病院・市薬剤師会の義捐奉仕によって賄われました。

⑫市立公益質屋

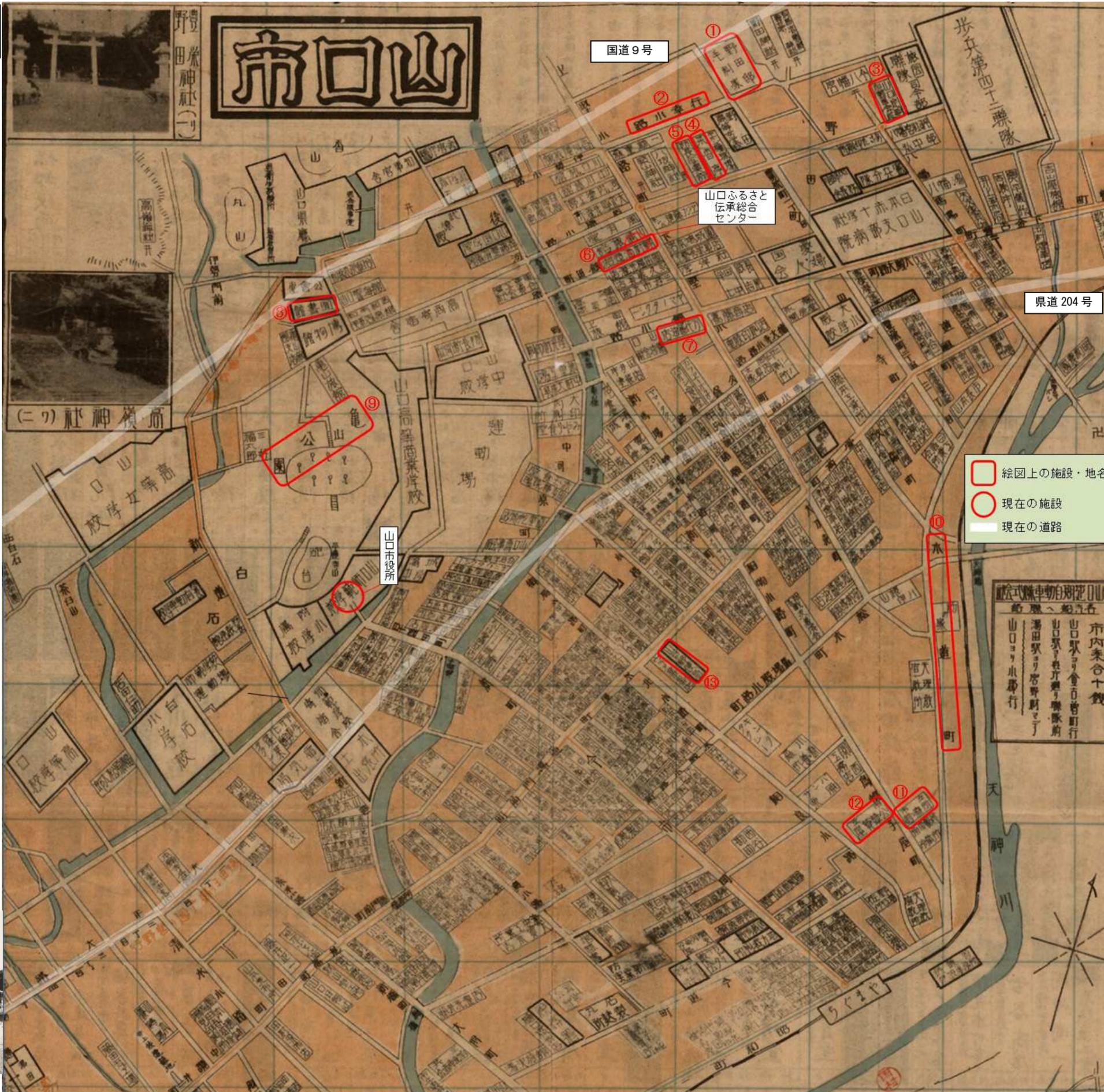
社会福祉事業の一環として昭和7年烏帽子屋町に仮事務所を開業、来店第1号は鮮魚商主人、クローム腕時計で2円の融通を受けたといいます。本事務所は同9年今市・茶畑に市職業紹介所とともに落成しました。

⑬山口郵便局

明治4年中市に山口郵便役所が置かれ、同6年東白石に設置された山口電信局は同19年郵便局に合併。事務の増大に伴い、昭和30年地上4階地下1階の鉄筋コンクリート造に改築。同53年市役所跡地に移転しました。



亀山公園の銅像群(山口市歴史民俗資料館蔵)



①毛利家野田邸(野田御殿)

明治2年毛利敬親の隠居所として建造。戦後県職員住宅となり、残っていた蔵は平成3年取り壊されました。

②行幸小路

明治18年明治天皇行幸の際に、野田御殿を行在所としたことに由来するものかと思われます。戦後「御幸小路」となりました。

③山口定期自動車会社

鉄道本線に沿っていなかった山口では、自動車交通に期待されました。昭和初めに設立され、同6年には12~18人乗りの乗合バス15台が走り市内十銭均一、市民の足として利用されました。(地図上の橙色の線が路線)市に譲渡され同18年市営バスが発足。湯田に移転し同34年市交通局となりました。(現湯田自動車学校の地)

④菜香亭

萩藩の膳部職だった齊藤幸兵衛が明治10年頃開業、県庁へ訪れる客人をもてなすための迎賓館的な料亭として、多くの政財界人・文化人が利用しました。昭和8年国際連盟の会議を松岡洋右が退場し国際連盟脱退へ。松岡の帰郷を歓迎する午餐会が催されました。平成8年閉業。同16年旧野田御殿の地に移築、最も華やかだった昭和11年当時の姿が復元され、「山口市菜香亭」として開館しました。

⑤防長写真館

明治10年頃小野為八が伊勢橋付近で写真館を創業したといわれ、その後八坂神社境内に写真館として変遷。現在残る、3連続アーチのベランダを持ち塔屋を載せた擬洋風建築の「河村写真館」は、明治20年代初頃松原写真館として建てられたものと考えられます。写真師山本紫峯による防長写真館は昭和25年まで営業しました。

⑥野村酒造店

明治19年酒造商家杉酒場として建造、大正期に野村家が受け継ぎました。昭和59年野村益治氏より建物・土地が山口市に寄贈され、平成3年山口ふるさと伝承総合センターとして開館、主屋はまなび館に。



昭和4年の豎小路町(山口市歴史民俗資料館蔵)

11月スケジュール

教室 OB会

日	月	火	水	木	金	土
10/29	30	31	1	2	3	4
			染色 パッチ③	パッチ 和裁 レザー①		着付 鷺流 竹細工
5	6	7	8	9	10	11
こども茶の湯 竹細工 竹細工	和裁 型染①	郷土料理 陶芸A ツール	郷土料理 陶芸A 竹細工 パッチ①	陶芸B 和裁 レザー②③	陶芸B 手織 大内塗	大殿ふるさとまつり準備 大内塗
12	13	14	15	16	17	18
大殿ふるさと まつり	和裁 型染②	郷土料理	郷土料理 パッチ③	パッチ 和裁 レザー①	大殿人形 まつり	大殿人形まつり おどなの木工入門教室 鷺流
19	20	21	22	23	24	25
大殿人形まつり おどなの木工入門教室	型染 和裁 型染③	ツール	染色 パッチ①	山口天神祭	手織 大内塗	こども狂言発表会 大殿塗 着付 鷺流
26	27	28	29	30	12/1	2
そば打ち体験 陶芸絵付け体験 こども茶の湯	和裁 型染④		染色	レザー② レザー③ 和裁 パッチ②		

イベント案内

大殿ふるさとまつり

日 時：11月12日(日) 9:30~16:00
 会 場：大殿地域交流センター、伝承センター
 内 容 (伝承センター会場)
 ○ステージ リコーダーカルテット、尺八
 ○展示・イベント 大殿小学校児童作品展示、抹茶、焼そばなど
 ほか様々なプログラムが催されます。

いい夫婦の日 大殿人形まつり

男女で一対になった「大殿人形」に伝わる夫婦円満のストーリーにちなんで「いい夫婦の日 大殿人形まつり」が開催されます。
 日 時：11月17日(金) ~19日(日)
 10:00~17:00 (19日は~16:00)
 内 容：大殿人形・大殿塗漆器等の展示・販売 (「Ouchi 夫婦」も展示)
 大殿塗・大殿人形のクイズによる大殿人形プレゼント企画予定
 山口風月堂の「大殿もなたん」販売予定
 主 催：大殿塗漆器振興協同組合 (事務局：中村民芸社内 927-0619)
 共 催：山口市
 <同時開催>夫婦湯呑みに絵付け体験
 日 時：11月18日(土) 10:00~12:00、13:00~15:00
 定 員：各回先着20名 (随時受付)
 体験料：500円/1個 (一人2個まで作成可)



ものづくり体験等のご案内

サンタのお家作り

サンタのお家の模型を作ります。
 日 時：12月10日(日)
 ①10:00~12:00 ②13:30~15:30
 講 師：原田忠征氏 (木工研究家)
 定 員：各回12名 (先着順)
 参加費：1,000円



ミニ門松作り

お正月用に簡単なミニ門松を作ります。
 日 時：12月23日(土) 13:30~15:00
 講 師：高木範男氏 (木工研究家)
 定 員：20名 (先着順)
 参加費：800円



陶芸絵付け体験

素焼きの皿に絵付けをします。
 日 時：11月26日(日) 14時~16時
 定 員：先着20名 (小学生以下は要保護者同伴)
 体験料：1皿500円 (1人2枚まで)



そば打ち体験

打ったそば3人前をお持ち帰り
 日 時：毎月最終週
 11月は26日(日) 13:30~16:00
 定 員：14名 (抽選にて選定)
 体験料：1,000円 (材料費含む)



申込受付は11月18日(土)9時~
 (そば打ち体験受付は11月20日(月)まで)

こども鷺流狂言教室発表会

こども鷺流狂言教室参加者が稽古の成果を発表します。
 日 時：11月25日(土) 15:00~16:00
 定 員：先着30名 (随時受付)
 料 金：無料



山口ふるさと伝承総合センター発行

〒753-0034 山口市下野小路12
 TEL 083-928-3333 FAX 083-932-1877
 E-mail y-densho@c-able.ne.jp
 URL http://y-densho.sblo.jp/

館内見学時間
 9:00~17:00
 入場料 無料